

●卒業式が挙行されました

4年振りの通常開催 45回生 275名の新たなる旅立ち

3月1日（金）、第45回卒業式が挙行されました。式では学級担任の呼名のもと卒業証書授与が行われたのち、駒木康伸校長より式辞が読み上げられました。式辞の中で駒木校長は「一隅を照らす」という最澄大師の言葉を取り上げ、「自分の置かれた場所や立場でベストを尽くし光り輝いて欲しい。そうすれば隣の人が光る。町や社会が光る。小さな光が集まって、日本を、世界を、やがて地球を照らす。」と述べ、「急速に進化し続ける現代社会にあっても『一隅を照らす』人間であり続けて欲しい」と結びました。次に、ご来賓を代表し、本校PTA会長の白津守康様より祝辞をいただきました。白津会長からは「18歳まで立派に育ったことは大きな親孝行」との言葉に続き、「人間にとって大切なのは『了見』。考え方が柔軟で、人の意見によく耳を傾ける人間になってほしい」という激励の言葉をいただきました。



続いて、在校生代表送辞として、現生徒会長の M・S さんより、「先輩方が培ってきた技術や経験、情熱を胸に先輩方の背中に追いつき、記録を塗り替えられるように精進していきたい」との言葉が贈られました。最後に、卒業生代表答辞として、前生徒会長の M・T さんより、高校入学後も感染症蔓延のために不自由な学校生活を余儀なくされたこと、それでも、周囲の人たちに助けられ、楽しく充実した毎日を送ることができたこと、3年生の夏の終わりに行った文化祭は、通常開催の経験がなかったためゼロから計画を立て準備したこと、文化祭当日は南高生全員と全力で行事を楽しむ一方、これで最後なのだと寂しく思ったこと、そして、そのどれもがもう二度と戻ってはこない大切な日常だったと今改めて気づかされたことなど、3年間の高校生活の思い出が、道上さん独自の感性溢れる言葉とともに述べられました。さらに道上さんは、家族に向けて「支えられる側から支える側になれるよう日々努力をしていく」と、また、在校生に向けて「南高生である誇りを持ち各々の目標を達成できるよう頑張ってもらいたい」と言葉を贈りました。式の締めくくりには、4年振りとなる校歌斉唱が行われ、式終了後には、卒業生からのサプライズとして歌のプレゼントがなされました。記憶に残る素晴らしい卒業式でした。

